



甲斐市立玉幡小学校 学校だより 第28号

チーム玉幡

令和3年3月25日

学校長 丸茂和也

♪みんなが幸せになれますように～令和2年度の修了によせて～♪

本日3月25日（木）をもって、令和2年度は修了式を迎えます。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休業が5月の末まで続きました。例年入学式では「桜の花も満開で…」の言葉から始まることを「風薫る季節、夏の訪れを感じさせる…」という言葉からあいさつを始めるという異例のスタートとなりました。「3密を避ける、石けんで手洗いをしっかりする、換気をこまめに行う」を始めとする新しい生活様式への変更を余儀なくされました。学校でも教育活動のあらゆる場面で制限をかけなければならない状況で、授業や運動会、修学旅行など様々な改善や工夫が必要となりました。



できないことが多く、子供たちにはとてもつらい思いをさせることとなりました。しかしながらそんな状況の中でも、子供たちは児童会や6年生をリーダーとして「最幸の玉幡小をつくろう」という目標に向かって、みんなで力を合わせて、努力を積み重ねてきたと感じています。令和2年度の修了にあたり、二つメッセージを送りたいと思います。

一つ目は「自分を信じて、まずやってみよう」ということです。玉幡小の290人のみなさんには一人一人にいいところがあります。全員がすばらしい個性をもっています。先生たちはそんなみなさんの良いところをよく知っています。だからこうなりたい、これをやりたいというような夢や目標があるのなら、まず、できそうなことからやってみましょう、少しずつゴールに



向かって歩いてみましょう。とんでもない大ジャンプをするよりも、小さな一歩を積み重ねることの方が夢に近づけることを改めて実感しています。まずやってみよう、たとえつまずいても前に向かって転んだのならそれは必ず夢に近づく一歩になります。夢が終わるのはつまずいたときではなく、あきらめてしまったときです。どうか自分に自信をもって、夢に向かって前を向いて歩いて行

ってください。新しい学年でも思い切りやってください。必ず何かができると思います。みなさんの



ことをこれからもずっと先生たちは応援しています。

二つ目はいつも「ありがとう」の気持ちをもって生きていってほしいということ。今日こうして修了の日を迎えられるのも決して当たり前のことではありません。3～5月の休校中から今年は当たり前と思っていたことがどれほど有難いことだったのかを思い知りました。それと同時に今こうして生きていること、みなさんと会えていっしょに過ごせる何気ない日常や人との絆の大切さ



を知る機会でもありました。今日だれかと出会い、話し、笑い、食事をして学習ができる、こんな当たり前と思うことが本当はたくさんの条件がたまたま一つになってやっと可能となった、とても尊い瞬間なのです。人に何かしてもらったとき、優しさを感じたときはもちろん、一見当たり前の幸せな時を作ってくれる人や物にいつも「ありがとう」の気持ちをもって、それを言葉や態度で表現できるみなさんでいてください。ありがとうを伝え合うと笑顔になれます。幸せだから

笑顔になるのではなくて、笑顔でいるから幸せになれるのだと思います。ありがとうをたくさん感じて、伝えて、笑顔になって、たくさん幸せになってください。

朝から元気に「おはようございます」と言ってくれたみなさん、教室を回るとうれしそうにあったことを話してくれたみなさん、授業中一生懸命に取り組んでいたみなさん、グラウンドを笑顔いっぱいにかけて回るみなさん、もくもくと無言清掃に取り組むみなさん、多くのいいところをたくさん見せてくれたみなさん…私は、素晴らしい子供たちと毎日過ごすことができたことを改めて幸せに思います。ほんとうにありがとうございました。



保護者の皆さま、お子さんの進級おめでとうございます。多くのご支援ご協力をいただき、本日の修了の日を迎えることができました。特に今年は感染症予防のために、日々の健康観察を始め、健康の維持管理にご協力いただきました。また日々の授業や運動会、修学旅行などの行事等に変更や工夫を余儀なくされましたが、温かなご理解ご支援をいただきました。心より感謝いたします。これからもこの便りのタイトルである「チーム玉幡」で、子供たちの希望ある未来を創っていけますよう努力いたします。今後とも変わらぬご支援ご協力をいただければ幸いです。

子供たちそして保護者の皆さまの健康とご多幸を祈っています。一年間本当にありがとうございました。

甲斐市立玉幡小学校 校長 丸茂和也



